

西教寺報

106号

仏歴2552 (2008・平成20) 年
9月23日発行
呉市中央7-7-13
西教寺蔵本通支坊
TEL 0823 (21) 2798
FAX 0823 (21) 2795
www.saikyoji.net
郵便振替番号
01340-3-29117

お久しぶりのご挨拶

住職敬白 (岩崎正衛)

皆さん、お久しぶりで

す。おかげで元気になつて、またここへ出てきました。昨年(二〇〇七年)九月、秋のお彼岸の最中に、京大病院で第二回目のガンの手術を受けました。その後遺症で四ヶ月声が出ませんでした。お念仏も声を出して称えられませんが、朝晩のおつとめも、お取り次ぎも出来ないので。本来はあわてました。昔、大野伴睦という政治家がいまし

たが、彼が名せりふを残しています。「猿は木から落ちて猿だが、代議士は選挙に落ちたら、ただの人だ。」と。私はそのマネをして「ひとだが、まっついて、ひとだが、真宗僧侶がだまっついては、真宗僧侶ではない」の新格言をものしました。同じ僧侶でも「真宗」の僧侶と言う所がポイントです。禅宗のお坊さんは坐禅が本職ですから、声は絶対条件では

ありません。ところが善導大師(中国613〜681)が「自信教人信」(みずから信じ人をして信ぜしむる)とおっしゃるように、浄土真宗のお坊さんは、阿弥陀さまのお慈悲を、まず自分が聞き信じ、その喜びを人さまに、お取り次ぎする責任があるので。この頃は、僧侶が一方的にしゃべるのではなくて、一座の全体の人がお互いに話し合い、聞き

合う法座形式が、大切にされていますが、それでも、その座を、責任を持って取り仕切る者(僧侶)の役目は、ますます大きくなると思います。昔、「近江商人」の名前が喧伝されましたが、この人たちを育てたのが浄土真宗の僧侶です。わ



中学入学を阿弥陀さまに奉告する植田公樹さんご家族の皆さん
(関連記事は6頁)

紙面

お久しぶりのご挨拶 住職敬白 (岩崎正衛) … 1
進徳日曜学校卒業式… 2
連研第四期修了・第五期始まる… 3
プロジェクト・ターナ… 3
合同花まつり… 4
三津田支坊花まつり… 5
フクフク体験第2弾・介護に関する勉強会… 5
2008 年初参式… 6
2008 年入園・入学奉告式… 6
敬悼録… 7

宮原康久・井上カズミ・向田マツコ・河崎ミサコさん… 7
御礼・訂正とお詫び… 7
降誕会一親鸞さまのご誕生に感謝… 8
ビルマの豎琴は音もなく (6) … 斎藤久仁子… 8
全戦没者追悼法要・緩急車雲助「蟻の祟り」唸る… 9
白道会大会 信楽峻磨先生… 10
今年の夏も、でんきを消してスローな夜を… 12
真宗カウンセリングワークショップ… 12
龍大伝道部夏期巡回・ほとけの子夏の集い… 13
誓子の日記… 岩崎誓子… 14

が安芸の国は、古来安芸門徒と称せられ、浄土真宗の盛んな土地とされていますが、近江商人の故郷である、近江の国（滋賀県）も、浄土真宗の盛んな土地柄です。ふるさとで、お手次のお寺のお坊さんから聞いた、念仏の教えを胸に、商都大坂で、成功したのが近江商人なのです。今日の、丸紅、伊藤忠、高島屋、日本生命、ワコールなど、みなその流れです。彼らの根本精神は、「売り手よし 買い手よし 世間よし」の「三方よし」の精神だったそうです。まさしくこれこそ、仏教の根本精神である、「縁起」の世界の実践です。今日、「縁起」の言葉は、「縁起がよい」とか「悪い」とか、ろくなところにしか、使われていませんが、そんな意味は全くありません。

文字通り「縁起」とは「縁つて起こる」で、この世の中の、すべての物事のあり方を表す、仏教の大切な言葉です。私が今日生きているのは、私以外のすべての（それは、いのちあるものも、いのちのないものも、すべてを含めて）ものの、おかげを受けて、生かされているのだ、という、仏教徒の人生観であり、世界観です。だから、「ワシはだれの世話にもならず、ひとりで生きているワイ」などと思う人は、今日流行の言葉でいえば、「品格のない人」であり、仏教徒とは申せません。

東京の某宗門立大学（浄土真宗ではありません）の先生が、ある雑誌に書いていました。「このごろ、うちの宗旨の若い坊さんが、葬式や法事に行くのを、嫌うのだ。なぜかという、現場で『死んだらどうなるのか？どこへ行くのか？』などと参列者に聞かれて、よう答えられないからだ」云々と。ウム私もかねがね、アミダさまを拝まない宗旨は、死んだらどうなるのだろうか、と思っていました。しかし、このことは、よそ事ではありません。アミダさまを拝む我が浄土真宗の若いお坊さんの中にも、この傾向が見えるのです。人間は必ず死にますが、死後の世界の話をしない宗教は、どうなっているんでしょうかね？世界の三大宗教といわれる、仏教、キリスト教、イスラム教をはじめ、およそ、まともな宗教で、自分の死を説かないものは、ないでしょう。仏教、とくにその中でも、アミダさまを心の拠り所と

する、私ども浄土真宗は、死んでも死なない、さとり、いのちの世界のあることを、喜びとして、世のため、ひとのため、まつとうに生きて行くことを説くのです。

このたび、「浄土真宗の教章」が改訂せられました。その中に、

「教義」「阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき、浄土に生れて仏となり、迷いの世界に還って人々を教化する。」

と、あります。まことに格調高い文章ですね。また、ゆつくりご縁に会いたいと思います。

進徳日曜学校卒業式



写真中央左から岩崎慧さん、道田由佳理さん。

去る三月一日、日曜学校卒業式が行われ、岩崎慧さん、道田由佳理さんの二名の仏の子が卒業しました。強く優しい心、心のスイッチは身についたかな？一生かけて学ぶ心でもあります。

れんけん 連研第四期終了・第五期始まる

去る三月十五日、安芸
南組連研修了式が行われ
18名が修了、12名が準修
了されました。
連研とは、連続研修の
略。安芸南組五十四ヶ寺
で行っている研修で、二
年間で十六回、本願寺会
館で行われている研修。
話し合い形式で行われ、



西教寺を所属寺とする（修了者）松垣篤子・河野和俊・宇野順子・上穴光明（準修了者）濱崎清子

「今さらこんなことを聞
けない」というようなと
ころから学ぶことができ
る。修了者は希望すれば
本山で中央教習を受講で
き、門徒推進員として活
躍できる。

五月より第五期が始
まったが、今期は昼の部
（第三土曜）に加え、仕
事を持つていても参加で
きるよう、夜の部（第二
土曜）も始まった。今年
から色んな場所にパンフ
レットを置いて募集した
効果があつてか、所属寺
を持たない一般からの参
加も多い。また、昼の部
に登録していても、都合
がつかない場合は夜の部
へ「スライド参加」が相
互に認められていて、参
加者に好評だ。



去る二月末、元本願寺
ハワイ別院輪番の牧野繁
徳先生が来日。来日期間
中、お時間を頂戴して西
教寺にも来てお話をし
ていただきました。
牧野先生によると、ハ



牧野繁徳さん。

ワイでも高齢化が問題と
なっていて、それが発端
となって設立されたのが
プロジェクト・ダーナで
す。この事業は高齢者や
身体障害者に対する
在宅訪問、電話で話をす
る電話訪問、介護者に休
息の時間を提供する介護
者救援、買い物や通院・
外出、お寺へのお参りな
どに車の便を提供する
車の便提供等を行って
います。驚いた
ことに、これら
のすべてが専門
家ではなく一般
の学生、門徒な
どによるボラン
ティア（自発的
意志に基づく無
償の奉仕）で行
われているとの
こと。また、単
なるボランティア

アではなく「ダーナ（布施）」を根本精神とし、
誰でもできることを精一杯
させていただくことが
お念仏する者にとつての
生き方でなければならな
い、ということが理念と
して掲げられている。

牧野先生らにより、草
の根運動のように始まっ
たこのプロジェクト・
ダーナ。浄土真宗の寺院
から発信したものである
が、今はハワイ全土に、
そして宗派を超えて活動
の場を広げ、さらにアメ
リカ本土にも広がってい
るということでした。

その局長のローズ中村
さんは一九九三年にカー
ター元大統領夫人が創設
した「ローザリン・カー
ター介護賞」の第一回
目の受賞の栄に輝きまし
た。

合同花まつり



花御堂に甘茶をかけるほとけの子



西教寺からの参加者は、蔵本公園で花まつり弁当を食べました。桜も咲いていてお花見気分も楽しめました。

ゴルフや怪しい食べ物屋が新登場。エビ煎餅せんべいにケチャップ、マヨネーズ、チョコチップ、粉チーズ等々、好きな物をふりかけて食べるお店です。子供たちはワーワーきゃーきゃー、ベトベトになっ
て喜んでいました。



アヤシイお店。

去る四月三日、お釈迦しゃかさまのお誕生日を祝う合同花まつりが、蔵本通支坊くらもとどおりしほうで行われました。近隣きんりんの十四ヶ寺が参加・協賛して、七十一名の仏の子が集い、楽しいひと時をすごしました。

休み中で新年度前というところでたくさんの方が親子で来られていて、アピール度は絶大ぜつだい。また、昨年に引き続き、「花まつり弁当」を、今年は駅弁の山崎家やまざきやさんに作っていただきました。子供だけでなく、大人もお弁当を食べながら、お友達や各家庭で、仏さまの話などをしてもらってご縁を結んでもらおうというもの。五個以上なら希望の日時に配達ということ、それ以下でも、各地区最寄りのお世話人さんにとりまとめて下さったおかげで、昨



年を約百食上回り四百食を超えました。おつとめとご法話の後はお楽しみのアトラクション。スーパースポーツ、ボールすくい、ポックル、輪投げ、ストラックアウトに加え、今年はパット



新登場パットゴルフ



三津田支坊花まつり

去る四月十三日（日）、三津田支坊でも花まつりが行われました。三津田支坊の花まつりは、ご門徒主催で、今年で四回目になります。今年は、昨年を上回る子供四十五名がお参りしてくれ、大人と合わせて約七〇名になりました。準備した椅子に座りきれず、主催者側は嬉しい悲鳴をあげました。



写真（上）蔵本通支坊合同花まつり。
写真（右）三津田支坊花まつり。

ワクワク体験第2弾

介護に関する勉強会

昨年、お寺にご縁のない方に、少しでもお寺に参っていただく、高い敷居を削ろうと、婦人会に企画部ができました。その企画第二弾として、去る七月二十五日、ワクワク体験「介護についての勉強会」が開かれました。

講師には谷内田純子先生（呉市中央地域包括支援センター）をお招きし、その仕組みについてお話を聞きました。

介護保険料は、四〇歳になると医療保険（国民保険など）に加入されている人に保険料としてかかります。六十五歳になると被保険者証が送られてきますが、介護サービスを利用するには介護認定の申請が必要です。申請後、結果がでるまでに約三〇日かかります。また、六十五歳以下でも申請し認定されれば介護を受けることができます。認定結果（要介護度）は、「要支援」が1〜2、「要介護」が1〜5、と



身体をほぐしましょう」と谷内田先生（写真左端）。

なっていて、それに基づいてケアマネジャーと相談し、介護計画を立てることでした。最後に質疑「病院を三ヶ月で出てくれと言われたが」には「病院内にある相談窓口か連携室で相談のつてくれます」とのことでした。

■介護の申請

すこやかセンター五階の介護保険課
呉市和庄一丁目2-13
呉市役所一階の市民課
呉市中央4丁目1-6
各支所

■相談やお問い合わせ（旧市内の方）

中央地域包括支援センター
TEL 0823（20）6307

2008年 初参式



脇原 奨	水口 陽南子	榎坪 友菜	中岡 美結	坂根 道子	坂田 健太	厚井 大弦	小泉 結生	河部 英子
植田 公樹	道田 由佳理	〈中学〉	脇原 蔵斗	高木 心	大洲 一星	〈小学校〉	高木 輝	〈入園〉
								【入園入学奉告式】

去る四月二十二日、蔵本通支
坊で、乳幼児が初めてお寺に
参る初参式と、入園（保育園・
幼稚園）や入学（小・中学校
等）される新入生がお参りする
入園入学奉告式が行われました。
今年には人数こそ少なかったもの
の、中学生も二名お参りしてく
れて、嬉しい限りでした。
今年も、中通専徳寺さんと合
同で行いました。

2008年 入園入学奉告式



ごうたんえ しんらん 降誕会—親鸞さまのご誕生に感謝—

長ノ木本坊でお抹茶のお給仕をして下さった皆さん。



写真右・三津田支坊のお斎。



五月二十一日は、親鸞さまのご誕生日（降誕会）でした。三津田支坊では、恒例のお斎が参詣者に無

料で接待されました。長ノ木本坊では、橋本明宣先生が改訂された浄土真宗の教章についてお話し下さいました。参詣者は、お聴聞の後、お抹茶を楽しみました。

蔵本通支坊は、ビンゴゲーム大会でございました。おつめの後、ビンゴゲームまでの間、別々に過ごすのですが、今年は吉岡隆義先生が「誕生日は祝ってもらうのではなく、お世話になっている方に感謝しましょう」と、子供にも分かるご法話をして下さり、子供も保護

いっしょにお聴聞できました。また、昨年は子供が多すぎて收拾がつきませんでした。今年はずき品置き場までバリエードを築いていただき、混乱なくできました（感謝）。



西教寺賞のフットマッサージャーをゲットした古川末子さんとお孫さん。



みんな静かに聴聞。

ビルマの壁は音もなく

——ニャンマーのパゴダ巡り——⑥

斉藤久仁子

一生見せ物で？

パタウン族の首長美人女性の踊りを見た後、能舞台様の建物の左側にある夫妻の住居を見学する。

右側は、踊った二人の少女の住居だそう。二階建てと見えたのは、能舞台に比べて、住居がとても高い高床建築になっているからである。現地日本語ガイドのMさんと私を男が案内してくれる。危なっかしい階段、というよりごつい梯子を昇る。手すりもないこんな狭い梯子を、年取ったら、いや今に病気にでもなったらどうやって昇り降りするのだろうか。

濡れ縁から入った最初の部屋は、壁いっぱいにたくさんの写真が貼り出してあった。いずれも家族の記念写真と思われる、奥の部屋へ入ると、薄暗い中に、十代前半と後半と思われる二人の少女がいた。人がいることを予想していなかった私は慌てた。Mさんが、夫妻の娘だと教えてくれた。二人は首を長くしていなかった。いくら首が長いほど美人だとされているといったって、現実生活での不自由は目に見えている。さきほど、悲しそうな表情を変えないまま、踊った母親を見た後だから、自分は首を長くしていても娘たちにはさせなかった親の心が分かる。首を長くすると学校へ行けないし、首を長くしないと故郷の村へ帰れ





ないという。二者択一^{にしゃたくいつ}。この少女たちの両親は、娘といっしょに住むには村へ帰らない道を選んだ。すると一生湖畔^{こはん}のこの村で観光客を相手に我が身を見せ物にして暮らすのだから、この一家を思うと私はまた悲しくなった。

明るい縁側^{えんがわ}へ出ると、そこでは母親が機^{はた}を織っていた。先程踊った美しく着飾った姿のまま。さつき、あの能舞台様の建物の左部分には色々の織物が下げてあって、触って

みるとスカーフで、大きさは二種類あった、今織っているのがあれと同じもので、綿と毛の交ぜ織りだ。あの重い首と手ではさぞかし肩が凝^こるであろう。スカーフには美しさとともに悲しさが織り込まれている。

夜、ホテルでガイドブックを読んでいたら、パタウン族の項に思いがけない記事があった。いわく、「入場料は殆ど彼女達には入らないので、特産品である織物やアクセサリーを買う。」とあるではないか。じゃパタウン族はホテルの食いものにされているのか、翌朝、そのことを皆に話すと、皆買うと言った。言い出しつべの私が買物係になる。誰が何色を何枚、と書きつけて出掛ける、例の能舞台に近づくとも首長奥さんが出てきて、スカーフをバーから下ろす。しかし、色を選ぶところから私達を買いたい大きさは絶対数が足りない。事情を察したのか、二人の首長少女がスカーフを持って出て来た。やっと注文の枚数にぴったりになった。

全戦争死没者追悼法要

「蟻の祟り」 唸る 助雲車急緩 釈耕師 講



敗戦六十三回目の夏、八月十四日に長ノ木本坊で、また十七日に三津田支坊で、全戦争死没者追悼法要を行い、講釈師緩急車雲助さんによる原爆講談「蟻の祟り」を聴きました。

この講談は、世話物怪談というらしい。被爆者の火傷にできた瘡蓋^{かさぶた}を食べた蟻が全滅。残った卵からかえった蟻がABC（原爆傷害調査委員

会）の軍曹に噛みつき、痒くてたまらない湿疹になる。それが次々と接触感染していき、とうとう大統領に。そして歴代大統領に祟り続けるという、なんだかスカッとする話（もちろんフィクションです）。言わなければどうにも収まりがつかないという雲助さんの気持ちが伝わってきました。

「安らかに眠り下さい 過ちは繰返しませぬから」。この文の主語は誰か。平和記念公園の原爆慰霊碑をめぐって起こった碑文論争について、後で皆で考えました。主語は日本人か、アメリカか。とても根深い問題です。碑文の作者、雑賀忠義さんは「日本も悪い」とゆずらなかつたという。そして、「過ちを繰り返さないため全ての国が団結すべきだ」「誰それが悪いという次元でこれからの人類が一体となつて恒久平和の実現ができてよいか」と考えていたようだ。雑賀さんは被爆者でもあります。

白道会大会 信楽峻磨（元龍谷大学学長）先生 現代人の心は病んでいる

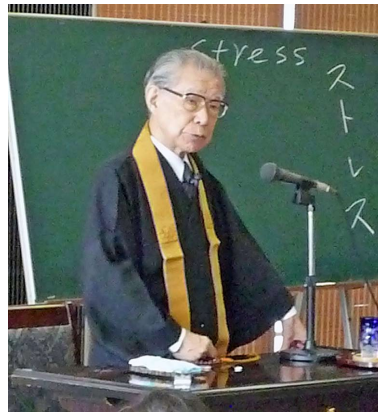
去る八月、二十四日から二十六日まで、蔵本通支坊で、信楽峻磨先生（元龍谷大学学長）をお迎えして白道会大会が開催されました。

社会に開かれたお寺を目指してはじめた公開講演会も、今年で六回目になりました。今年のご講師は信楽先生ということで、前売り券は早くから売り切れてしまいました。当日券を求めて呉市内だけではなく、県内外より多数の参詣者で本堂は満堂となり、余間（ご本尊の両脇、七高僧や聖徳太子がご安置してある一段高くなっている畳の間）まであふれました。

さらに今年は、「信楽先生と話そう」と銘打って、一方通行の講話ではなく、対話形式の法座を二日間に行いました。「病気で生きる氣力を失っているつれあいにどう接すればよいか」「幼くして死別した家族にはもう会えないのか」等々、まことにさまざまな質問が出されました。先生は、一人ひとりに丁寧に対応され、全てその場で解決という訳にはいきませんが、この日ばかりは脱葬式仏教、現代を生きる個々人が抱える問題に対応する場にお寺がなることができたのではないかと思います。（以下は講演の要旨）

不安・恐怖・怒り・絶望

現代の日本のありようは、どこかが病んでいる、皆さんもご同感のことでありましょう。その心が蝕まれているということの中身は一体何なのか。専門家は色々分析するでありましょうが、皆さんご承知の言葉で言えばストレスという問題であろうと思います。ストレスとは緊張すること、心の糸がピンと張っている状態。現代は昔に比べてストレス（緊張）が非常に強くなっているんだと思います。そのストレスは、さらに細かいいうと、原因がはつきりしない、先行きが見えないところからくる「不安」や、原因ははつきりしているが、どうにもすることができないところからくる「恐怖」、また複雑な人間関係から起こる「怒り」、生きる未来の希望を失う（失った）「絶望」などがあります。これらは多かれ少なかれ昔からありましたが、現



代人は上手くコントロールできなくなってきた。

このようなストレスに対しては、酒を飲む、旅行する、グチを聞いてもらうなど、人間関係で解消する方法があるが、ここでは、もうひとつ宗教的な方法で解決する方法があることを申し上げたいわけだ。

「持つこと」と「成ること」

心理学者のエーリッヒ・フロムは「持つ」と「成ること」を問題にする。人間が生きているということは「持つこと」である。持つこと、つまりは物。もうひとつは「成ること」。私に引き寄せると「成ること」。成ることは心を問題にしている。現代人は物ばかりに心を奪われていて、「成る」こと、心を育てることを忘れていてのではない。人間社会の中で、人間らしい心を少しずつ育てることを忘れていないのではないか。この心を育てるのが仏法です。

お仏壇を柱として心を育てる

心を育てる、「育つ」という言葉の意味は、中国では「子供に肉がつく」という意味。日本では二説ある。「巣立つ」から来ているという説と、もう一つは「添え立つ」。

あさがお
朝顔が咲くためには杖を立ててやらないと綺麗な花は咲かない。親が子供のそばに立つてやる、心の支柱、杖になるような何かを子供に渡してやる時に、はじめて真つ当に大人になってゆくんだという考え方。ただ肉がつくだけではなく、私たちは何を支えとし、杖としているのか。心を育てるということはここが大事。確かな杖を持っているのかどうか。

われわれは先祖からお仏壇を大切に学んでいます。おじいちゃんもおばちゃんも孫もひつくるめてお仏壇に手を合わす、お仏壇を杖とし、柱として育つ。「持つこと」、お金には全く関係ないけれども、心を育ててゆくんじゃないやありませんか。都会の生活にはこういうものがなくなってきた。先日も燃えないゴミにお仏壇が棄てられていた。若い者が

棄てたんだろう、心を育てることを忘れた人間がどう人間になつていくか、おおよそ見当がつく話ですね。死んだ先の話ではない、ここでどれだけ心が育つか勝負なの。救われるとは成つてゆくこと、お仏壇を柱にしながら成つてゆく、育つてゆく、なつていないのが成つてゆく、育てられたことを救われたという。

救われるとは

「すくう」という字は「救」「掬」「援」など色々あるが、仏教での救いは「済度」という。「済」は水をととのえる、「度」はわたるの意。インドの言葉で「ウッタラナ」。人生は、さまざまな悲しいこと、苦しいことが多い、若いときもそうだし、年取つてもそうじゃ。私のように後がない老人になつても同じ事や。なかなか思う

ように、この世の中いかんもんや。それを、一歩ずつ一歩ずつ渡つてゆく、超えてゆくの。そういう確かな足腰をお育ていただいたのが「お救いに与つた」ということです。これは私も偉そうに言える生き方をしているわけじゃありませんけどね。色んなこと

が起きてもナンマンダブと。止まっちゃあならんの。とにかく半歩でも、またその半歩でも前に進んでいく、それがね、すくわれた者の姿ですぞ。悲しみや苦しみの前に立ち止まって、もうどうしようもないと言つて、うづくまつちゃあなりませんぞ。そういう確かな心を、確かな生命を、確かな足腰をお育ていただくの。これが仏法を学ぶと言ふことです。

横超

また親鸞さまは「救い」を「横超」ともいう。横つ飛びに超える。超えがたい人生を不思議にも超えてゆく道があるぞという。この世の中を渡れても、死が

渡れるかどうか勝負ですぞ。豊臣秀吉は「難波のことは夢のまた夢」、全てパーだと言つて死んだ。これじゃあ生きた意味がないんじゃないか。それぞれの人生精一杯生きて、ありがとう、お世話になつたと、前を向いて死ねるかどうか。その、前に向いて死ねる姿を往生というた。往生は「往いて生きる」、「死ぬることは生きることだ」と教えた。それは渡るといふこと。死を真つ当に正面に据えて、一歩ずつ死に向かつて生きて行く、死を生きるつちゆうことや。新しい生命の世界になお抜け出して生きてゆく、それが往生と言ふことの意味でしょう。そういう人生を最後に迎えることができるならば、おすくいに与つたという、これが真宗の教えです。

ま、私も含めてどういう死に方をするか、偉そうなことは



公開講演会の様子。満堂の参詣者。

言えませんが。ともかく死のことはさて置いて、死を迎える私たちの人生、前を向いて、死を見据えて、「死もまたわが人生なり」、死を生きてゆくという、死さえも超えて生きてゆくというような、大きな生命を私たちがいだいて、そういう確かな力をいただいて、そういう確かな杖を持つてお育ていただくならば、超えていけるんです。私たちの前をたくさんの人たちがお念仏を申してそういう形で死を超えていったんです。我々もまた、しかとそこに立って生きて参りましょう。現代のさまざまな問題はほんとに複雑であって難しい問題ですが、それは

それとして、私たち一人一人の人生を、「あらがとう、お先にゆくかな」って。そういうように後ろ向きに孫子に挨拶して、前向きに死んでゆける。仏法のない人はね、前が見えんようになるから。前がコンクリートになるからね、前の話はせんよ。「昔はよかったな」って。ダメよ、年を拾うたら、後ろの事をガタガタ言いなさんなよ。前を向いて生きて行くのよ。前を向いても見えんというなら、それはお念仏を申したら見える世界があるの。心を豊かに育てたら、見えてくる道が開けてきます。どうぞ、私たち一人一人の人生を、心を育てて生きて参りましょう。

真宗カウンセリング ワークショップ



去る七月十三日、十五日、広島市神田山荘で真宗カウンセリングワークショップが行われました。

今年（きょうねい）は京都の真宗カウンセリング研究会（けんぎん）と共催（きようさい）ということで、水戸（みと）から福岡（ふくおか）まで、日本全国から多数の参加があり、途中からグループを分けて行いました。例年（れいねん）は一泊二日で行うのですが、今年（ことし）は松岡（まつか）先生（せんせい）のご提案（ごていせん）で二泊三日にして、じっくり時間（じかん）をかけて行いました。人間の心（こころ）は機械（きかい）ではないので、すぐには変わりません。関心（かんしん）のある人に、どういことをするのか聞（き）かれても、上手（うまい）く答え（こた）えられなくて困（こま）るのですが、自分（じぶん）自身（みづか）に対して（たいして）も

相手（かた）にも、横着（よこづけ）せずにじっくり腰（こし）を据（す）えて、向き合（むきあ）うことが大切（たいせつ）なんだというこは分（わ）かったような気が（き）がします。基本的（きほんてき）に非構（ひこう）成的（てき）なエンカウ（enka）ンターグループ方式（かたし）です。心の温泉（おんせん）とも言う（い）みたいです。

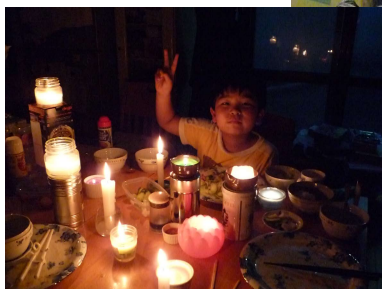
今年の夏至も でんきを消してスローな夜を。

「でんきを消（け）してスローな夜（よる）を。百万（ひゃくまん）人のキャン（can）ドルナイト。」夏至（げし）の日（ひ）と冬至（とうじ）の日（ひ）の夜（よる）に、二時間（にじかん）だけスロー（slow）で過（く）ごすイベント（event）です。こ



の日は、東京（とうきょう）タワー（tower）も通天閣（てんてんかく）も、青山（あおやま）通りのシャネル（chanel）も電（でん）気を消（け）します。少し（すこ）ずつ広（ひろ）く浸透（しんとう）してきて（き）いる感（かん）じがし（し）ますが、今年（ことし）も、く（く）れ環境（かんげい）市民（しみん）の会（かい）の皆（みな）さん

にお越（こ）しいた（い）だいて、その日（ひ）に使う（つかう）ローソク（ろうそく）作り（くり）、残（のこ）ろう（ろう）（使い古（く）しのローソク）からアロマ（aroma）キャン（can）ドル（doru）を作（つく）りました（した）。





不思議な絵を見せてくれるやっくん。

去る八月九日、恒例になった「**ほとけの子夏の集い**」が、三ヶ寺の土曜・日曜学校合同で行われました。今年はやっくん（藤澤先生）とむっくん（武藤先生）が来てくれました。

最初に不思議な絵を見せてくれました。ぱつと見ると一人の老人が描かれた絵ですが、見方によると、その人の手のように見えるのは人の絵だったり、あちこちに人が見えてきました。会の最初に「違う角度から見ると、色んな

物が見えてくる」ということを学びました。

午後からは人形劇

タヌキのポンタちゃんとネコのひろしくん（ネコひろしではない）が、ヒーローごっここの主役をどっちがするかでケンカになります。ポンタくんは怒って山へ遊びに行つてしまいました。そこは怖い生き物が住む危険な山でした。お坊さんの「ポンタくんだけが悪いのかな」という問いかけ

伝えることと聞くこと

劇後、今年は、劇の受けとめについて話し合う時間を長

て苦しんでいました。そこで

どういう訳か、アクションシーンが始まりました。伝道部人形劇では前代未聞、お笑いのまぎったアクションで、子供たちは大盛り上がり。そして、なんとかカエルをやつつけたポンタちゃんとネコのひろしくんは仲直りをするというお話でした。



初に教えてもらった「決めつけずに、色んな角度から考えることが大切」という話になりました。

自分を素直に相手に伝える

かり聞いてくれました。特に、進行のむっくん（武藤先生）が、まだちゃんと話ができません、モタモタ話す小さな子の話も、最後までしつかりと、とても大事に聞いて下さいました。

龍大伝道部 夏期巡回

ほとけの子夏の集い

みんなは「勇気が大切」とか「友情が大切」と感じた話してく

をご縁に、ひろしくんは、自分も悪かったことに気づきます。そして、勇気を出してポンタ君を助けに山へ行きます。駆けつけると、ポンタくんが、化け物ガエルに噛みつかれ

く取りました。ワーワー騒がしくなるかと思いきや、「自分が話をしていない時も他の人の話をちゃんと聞こうね」とあらかじめ約束したせいか、みんなちゃんと話をするし、しつ

れました。また、ネコのひろしくんは、「ポンタくんだけが悪い」と思っていたのに、どうして「ボクも悪かった」という思いが変わったのだろう、という話になった時、会の最

でいっしょに学びましょう！

誓子の日記

—最近のわが家の巻—

この夏は、信じられないほどの暑さが続きました。このまま、四季がなくなってしまうのではと不安でしたが、ありがたいことに秋はやってきました。この度は、家族の近況報告をしたいと思います。

近年ますます忙しくなった若院は、毎日時間に追われています。なかなか家族ともゆっくり過ごす時間もなく、テレビの前に座ったかと思うと転んだ寝をしています。

長ノ木本坊で週一回ヨガ（自力整体）の会が開かれているのですが、健康になってしかも痩せられると聞き興味を持ちました。夏の初め頃、自力整体のDVDと本を数冊仕入れてきました。そのDVDに

は、食事療法と整体の実技指導が収められています。その後一ヶ月以上がたちましたが、実際に整体をしているのを見たのは一度だけ。

朝食を抜く、夕食は少なめにということだけは続いています。まさに、勝手な自力整体なのです。それでも多少の効果はあったようで、子供たちからメタボだったお腹をさすられ「お父さん、お腹少しへっこんだ？」と言ってもらいにんまり笑っています。

長男は、中学に入りクラブ活動の水球部に所属し、毎日ハードな練習にもめげずにがんばっています。その為、真つ黒に日焼けして別人のようにスリムになりました。スリムになった自分に、本人はともご満悦で、毎日お風呂の後に体重計に乗るのが楽しいようです。（半年前には考えられ

なかったことです。）とてもいきいき毎日を送っている姿は親としてもとても嬉しいのですが、欲を言えば、もう少しお勉強の方も頑張ってくれたらなあと……。

二男は、昨年から将棋にはまって公民館の将棋教室に通ったり、月に一度の学生会に行かせて貰ったりしています。まったく将棋が分からない私は、とうの昔に相手にはして貰えず、この夏には、何とか負けまいと頑張っていたお父さんにも「参った」と言わせてしまった。難点は熱しやすく冷めやすいところです。相変わらず、おもしろ迷言で毎日のように家族を笑わしてくれています。また今度ご披露します。

三男は、とてもマイペースで一人遊びが大好きです。気が付くと家の中にある細かなガラ

クタ（壊れたプラモデルの部品やえんぴつのキャップ、乾電池などなど）を合体させてロボットをつくったり、箱やブロックを駆使した船や飛行機を作って遊んでいます。その創造力にはときどき驚かされます（親バカッ！）。こちらも、その熱意をもう少しお勉強の方に向けてほしいと願って働きかけますが、なかなかの強者です。

さてさて私と言いますと、長男の入学式から帰ったその晩に発熱し、肺炎を起こしてしまいました。昔の病氣知らずの私は何処へ…体力に自信が持てなくなってきました。また、この年になって一つ偉くなったことがあります。長男の弁当作りのお陰で、早起きが出来るようになったことです。だいたいら5時半には起きれるようになりました。スゴイ！スゴイ！我ながら感心。母の愛情の為せ

るわざでしょうか。

しかし、子供たちが出掛けて静かになり、家事も一段落する10時頃になると睡魔が……。秋になって涼しくなった今日この頃。本当に……（ムニャムニャ）気持ちいいんですよねえ。身体を壊してはいけないし、「無理しない無理しない」と、心も身体も弛んでおります。



ご意見・ご感想・寺報に載せる記事・原稿を募集しています。

宛先

〒737-0051

呉市中央 7-7-13

西教寺蔵本通支坊内

西教寺報編集局宛

FAX 0823-21-2795

Email info@saikyoji.net